核兵器 VS 人類

― これからの8年が勝負

森り

浄土宗正明寺副住職

俊英い

与えた。 があった。そして、同報道は世界に対して失意を 昨年の十月、日本人を落胆させる衝撃的な報道

, , の報道を記憶に留めている日本人は極めて少な ところが、この報道を知る日本人、さらにはそ なぜならば、メディアでは量的にわずかな扱

いであったことと、その内容は背景知識を持たな

に日本政府が加わらなかった」(注1) が核使用を国際法上非合法にするよう求めた声明 いと、事態の重大さを理解できないからである。 これが、その報道内容の中心である。 国連総会第一委員会(軍縮)で、三十カ国以上

した日本の安全保障政策と整合性が取れない」と 政府は 「アメリカの核戦力を含む抑止力に依存

署名するに至ってい

理由を示した。

世界の潮流

まずは、この報道内容の周辺情報を補足してみ

る。

増し、二〇〇七年にはこの条約に百五十三カ国が当時、その運動に六十カ国から一千を超えるNG当時、その運動に六十カ国から一千を超えるNG

そして二〇〇八年には、クラスター爆弾禁止条う集団的合意を実現したのである。つまり、人類は「対人地雷は悪いものだ」とい

とている。に注がれた人類の意識の高まりが大きく影響を与約が署名された。この成果には、前述の条約締結

こととなる。核保有国の国民にも意識の高まりがそれを受けて、核廃絶の現実性に期待が集まる

くのNGOが動き始めた。

、核兵器廃絶への具体的な目標を揚げた」プラし、核兵器廃絶への具体的な目標を揚げた」プラ器のない世界の平和と安全を追求する決意を表明器こり、二○○九年、オバマ大統領による「核兵

再検討会議の急速な動き

気運の上昇が示された。気運の上昇が示された。核不拡散条約(NPT)再検討会議は、五年ごをに開催されている。最近の二○一○年の会議でとに開催されている。最近の二○一○年の会議でとに開催されている。

催され、そこで潮流はさらに具体性を見せた。 8 面 けて昨年五月、 る共同声明を発表したのである。 的 特筆すべきは、 次回の会議開催は二〇一五年である。 不可逆かつ検 第一 スイスをはじめ十六カ国が「全 回準備委員会がウィ 証可能な核兵器の廃絶_ そして、 それ 1 ンで開 を求 に向

兵器廃絶の必要性を各国の外交官を前にして、直動きの背景には、近年に赤十字国際委員会が、核

接に訴えてきたことがある。

国々が大きな貢献をしている。
した潮流の拡大には、スイス・ノルウェーなどのう議論が正面から投げかけられたのである。こううは対して「核兵器そのものを禁止すべき」といっまり、「核兵器の不拡散」という従来の方向

注目された日本の判断

三十五カ国が参加している。つまり、半年で十六声明を発表した。内容は五月のものを引き継ぎ、の報道を再読いただきたい。

さて、この「うねり」が半年後の十月、国連総さて、この「うねり」が半年後の十月、国連総

カ国から二倍以上

上に躍進

この国連総会を前に、

声明への署名

とくであり、「核の傘」を意識して、 国政府が核兵器廃絶を強調する声明に! 拒否という態度を明らかにした。 打診が日本にもあった。 しかし、 理由は 日本政 唯 賛 府 前述のご 同 0) は署名 被爆 な

は、いかばかりであっただろうか。スイス、ノルウェーをはじめ三十五カ国の落胆

かったのである。

核の傘」と人類の危機

保有国が、 が破滅的状況になることは、すでに予想されてい れば、 る 私たちは囲まれている現在となった。 地球の生物を何度も絶滅させるほどの核兵器に、 する考え方は大きく変わった。また、人類を含み 強力な核兵器が地球上のどこかで数発使用され 第二次世界大戦後、 注2)。 その直接的 懸命に核廃絶を訴えているのである。 それゆえに、 間接的影響により、 核兵器が出現し、 スイスなどの非核兵器 戦争に対 人類全体

いる。 過ぎ去った。 国 の安全のみに固執している時代は、 人類は全体的破滅の危機に直面して もは B

自



二度と繰り返さぬために

ず、 ル 前述の努力を惜しんではいない。 ウェ 1 は 核核 0 |傘||にある立場にも関

わ

落胆を越えて

にはある。 懸念すべきなのは、「日米を含む人類の生存」と アメリカをも含み、 日米同盟にも沿うものなのである。その方向性を 方は、決してアメリカを裏切ることにはならず、 **傘」との整合性を懸念した。しかし、今、** 「核兵器廃絶」との整合性なのである。この考え 昨 年十月、 日本政府はアメリカによる 世界へ訴えるべき役目が日本 日本 核 が 0

憲法九条をもち非核三原則の国であること 世界で唯 の被爆国であること 現在の日本を客観的

(注 3)

にみれば、

平和市長会議の中心であること

多くの国と貿易関係があること

アメ リカの親友であり、 中国と大きなビジネス

をしている

胆を越えて、世界の潮流に入らねばならない。のような国は他にない。私たち日本人は十月の落核廃絶に努力すべき、そして大きな力を持つこ

8年後にゴールを

は、至って真剣である。い。しかし、前述の世界の潮流を率いる人たち遠い先の話だと感じている人が多いかもしれな「核兵器廃絶」と言うと、非現実的であるとか、

体的に目指している。

本的に目指している。

本の開発、実験、製造、備蓄、使用および威嚇と器の開発、実験、製造、備蓄、使用および威嚇といて二○二○年には「核兵器禁止条約」(核兵器の別PT会議(二○一五年)で大きく進め、

事の枠組みは大きく変わることになる。そのゴーう集団的合意の獲得となり、核兵器に依存する軍条約が締結されれば「核兵器は悪いもの」とい

日本の仏教徒として

ルへは、これからの八年間が勝負なのである。

もっているであろうか。 ここまで述べてきたように、世界は「核兵器に な舵をきろうとしている。そしてその舵をきるに は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現 は、日本の役割がこの上なく大きい。しかし、現

来議院選挙以降、日本の政界・経済界は経済再 生へと懸命に走り、メディアもそれを軸に追って 生へと懸命に走り、メディアもそれを軸に追って は、一部の人たちが憂いている状態が続 なだけである。

者が、今まで以上に協働し、国民全体を牽引すべさを「教え」から学んでいる宗教者および在家信れは、言うまでもなく宗教者である。人間の愚かでは、誰がここで努力をすべきであろうか。そ

き時なのである さらに言えば、 (注4)。 日本の宗教界の中でも私たち仏

を有している。 教徒は、信者数・組織力からみても多大な影響力 私たち仏教徒は、 今、この努力を

怠ってはいけない。

具体的な努力を

することである。 とを挙げておきたい。 最後に、私たち仏教徒が、今すべき具体的なこ まずは、 次の各会議に注目

② 四 月 ①三月 核兵器に関する国際会議 NPT第二回委員会 (ジュネー (オスロ ブ

てくれる。

③ 八 月 今年は右の三件をはじめ、 第八回平和市長会議 重要な会議 (広島 が続

ウエ ① は 国)で投げかけられた内容に取り組むため、ノル 五年開催予定のNPT会議の内容を調整してい 1 昨年十月に共同声明 が開催するものである。 (スイスなど三十五カ ②は前述した二〇

> は、 もにインターネットの領域が見逃せない。 を多くの国民につなげていく努力が必要である。 真剣な眼差しを注いでいきたい。 くものである。そして③は、 (三月四日・五日) (外務省) はどのような態度をとるであろうか? それぞれの審議内容の報道に、 そして、私たちの情報入手には、新聞報道とと しっかり注目し、さらにはその姿勢と情報伝達 リアルタイムで重層的に必要な情報を提供し である①の会議で、 日本で行わ 私たち仏教徒 特に開催が目 日 ħ 本 ネット 政 は 府 前

獄を、 ある(アドレス http://mfh.eco.coocan.jp/ をネットで発信している。 絶をしなければ、 る方の情報入手の一助にしていただければ幸い 蛇足ではあるが、 核兵器廃絶は、「夢」や「憧れ」ではない。 いつか迎えることとなる。 人類は 筆者は核廃絶に特化し 「全体的破滅」 ネットを利用され という地 た情報 7 廃 で

(注3) 広島平和文化センターのスティーブン・リー

パー理事長の講演(二〇一二年六月・京都)の

内容から引用

ない。二〇二〇年がその年であり、史上最も重大人類は、必ず「廃絶」を勝ち取らなければなら

あとわずか八年である。

な転機となるであろう。

により提唱されたTTAPS理論・一九八三年(注1) 毎日新聞(長崎版)二〇一二年十月二十六日

注 4) 宗教界の動きの一つとしては、核兵器非合法 化声明に日本政府が賛同を拒否したことについ 十一月七日、 平和の会、 都宗教者平和協議会、 文を発送した。 世界の平和を求める京都宗教者連絡会、 京滋キリスト者平 野田佳彦首相 (中外日報二〇一二年十一月十 日蓮聖人門下·京都立正 (当時) 宛てに抗議 和 0 会の四 団 体は

日付